

intacs™ メンバー、SPICE アセッサー、および intacs™ の友人の皆様へ、

この数か月の間に様々なイベントがありました。その中から最も重要なイベントや新規のイベント、今後予定されているイベントについてお知らせいたします。

Timo Karasch  
intacs™ info 管理者  
(連絡先: [Timo.Karasch@intacs.info](mailto:Timo.Karasch@intacs.info))

---

## 目次

メンバー.....	3
アドバイザリーボードの新メンバー.....	3
ニュース.....	3
より正確な「EE4」の定義.....	3
NSPICE.NET – 日本におけるコミュニティ活動.....	4
JAXA PAM.....	6
TestSPICE V2.0.....	7
認定手順の大きな更新.....	7
SPICE Wiki.....	7
実施されたイベント.....	8
intacs™ 総会.....	9
ワーキンググループのニュース.....	10
「国際化」ワーキンググループ.....	10
「信頼性アセスメント」ワーキンググループ.....	11
「標準コース資料」と「アセッサーシラバス」のワーキンググループ.....	12
「試験問題」ワーキンググループ.....	13
「手順」ワーキンググループ.....	13
「アセッサー支援」ワーキンググループ.....	13
統計データ.....	14
Automotive SPICE® アセッサー(2012 年第三四半期).....	14
SPICE アセッサー(2012 年第三四半期).....	15

---

今後のイベント.....	16
Gate4SPICE ワークショップ:「アセスメントモデルにおける傾向」.....	16
Gate4SPICE ワークショップ:「SPICE アセスメント初心者」.....	16
Gate4SPICE ワークショップ:「SPICE と機能安全」.....	17
Gate4SPICE ワークショップ:「TestSPICE」.....	17
Gate4SPICE ワークショップ:「Automotive SPICE アセスメントにおける第三者ソフトウェアの確認」.....	17
文書責任.....	17

---

## メンバー

### アドバイザリーボードの新メンバー

#### Dr. Klaus Hörmann



クグラーマーグ CIE 有限会社(ストゥットガルト)のプリンシパル兼パートナーであり、著名な大企業や中小企業に対し数年に渡ってコンサルティングを実施しています。主なコンサルティング分野は、パフォーマンス改善、変更管理、プロセスリエンジニアリング、プロジェクト管理、品質管理であり、SEI 認定 SCAMPI リードアプレイザー、SEI 認定 CMMI インストラクター、intacs 認定 SPICE プリンシパルアセッサー、intacs 認定 SPICE インストラクターを務めています。コンサルタントになる前は、エンジニアリング、管理、(国際)プロジェクト管理において様々なポジションで数年間勤務しました。また、「Basiswissen Software-Projektmanagement」、「SPICE in der Praxis」、「Automotive SPICE in der Praxis」(左記書籍の出版社: Dpunkt Verlag、ハイデルベルク)、「Automotive

SPICE in Practice (出版社: rocky nook Inc、カリフォルニア サンタバーバラ)」の共著者であり、「CMMI Essentials(クグラーマーグの書籍シリーズ)」の著者でもあります。

(連絡先: [klaus.hoermann@intacs.info](mailto:klaus.hoermann@intacs.info))

#### Timo Karasch



メソッドパークソフトウェア AG(エルランゲン)の上級コンサルタントであり、認定テクニカルトレーナーとしてトレーニングを開発し、実施しています。プロセス改善やプロセス定義のコンサルタントを務めており、また、Automotive SPICE アセスメントの intacs 認定コンピテントアセッサーでもあります。主な活動は、要件エンジニアリング、成熟度レベルの体系的な向上、アジャイルプロセス改善手法であり、記事の執筆やメソッドパークを代表して会議に出席しています。

(連絡先: [timo.karasch@intacs.info](mailto:timo.karasch@intacs.info))

## ニュース

### より正確な「EE4」の定義

現在の EE4 に関する定義は、コミュニティにとって明らかに曖昧でわかりにくいものになっています。そのために、これまで頻りに疑問点が発生し、認定機関に提出された申請書が確認のために intacs<sup>TM</sup> アドバイザリーボードに転送されてきました。

そこで、EE4 として受理されるために達成しなければならないことを以下の 3 つの方針でより明確にし、この定義を改正しました。

1. intacs<sup>TM</sup> 団体の目的に応じ、専門の業界環境における既存知識に対するコミュニティの理解に貢献するもの。このコミュニティは、オープンコミュニティでなければならない。つまり、貢献内容が公にアクセスできなければならない(例: ホームページ)。

2. intacs™ 団体の目的に応じ、専門の業界環境における SPICE モデルの知識を拡張させるもの(新規の貢献)。その貢献には何らかの新規性や革新性を含まねばならないために、貢献者は批評にさらされる可能性がある(すなわち、貢献者は自らの貢献内容に対して議論・擁護する立場にある)。また、貢献内容がコミュニティによってアクセスできなければならない。
3. ISO/IEC 15504 に適合した PRM や PAM の国際的な普及を支援するもの。

この新しい定義は、intacs™ のホームページ ([www.intacs.info](http://www.intacs.info)) にある「Downloads」-「Procedures」の「Concept Experience Evidence version 3(intacs07-010e-ee concept)」に記載されています。

(連絡先: [detlef.vohwinkel@intacs.info](mailto:detlef.vohwinkel@intacs.info))

## NSPICE.NET – 日本におけるコミュニティ活動

日本では、2007 年に SPICE に関するコミュニティ設立に向けた活動が始まり、2010 年には、「日本 SPICE コミュニティ」が設立されその運営を開始しました。

そして、2011 年 5 月 20 日、コミュニティはその名を「日本 SPICE ネットワーク」通称 NSPICE.NET (エヌスパイス ドット ネット) に変え、活動が本格化しました。

NSPICE.NET は、その設立以来、intacs™ の日本代表メンバーの協力の下、日本における SPICE に基づいたプロセスアセスメントやプロセス改善の普及に向けて積極的な活動を展開してきました。以下に、NSPICE.NET の最近の活動をご紹介します。

### 日本 SPICE ネットワーク 第 8 回勉強会

NSPICE.NET は、設立当初から年 3 回の定期勉強会を開催してきました。そして、2012 年 9 月 21 日には、情報処理推進機構 (IPA) にて、第 8 回目の勉強会を開催しました。

勉強会の内容は、2つの講演と1つのワークショップで構成されました。1 人目の講演では、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の金子達也氏に JAXA PAM をご紹介いただきました。2 人目の講演では、日本自動車研究所 (JARI) の小谷田一詞氏に JARI における ISO 26262 の取り組みをご紹介いただきました。ワークショップのテーマは SPINA3CH でした。



IPA/SEC SPINA3CH ワークショップ



懇親会

## “クリティカルソフトウェアワークショップにおける日本 SPICE ネットワークの活動”

2012年9月27日と28日に、クリティカルソフトウェアワークショップ (10<sup>th</sup> WOCS<sup>2</sup>)が、JAXA と IPA の主催で開催されました。これは、セーフティクリティカルなシステムに関する会議としては、



日本で最も大規模なもので、NSPICE.NET からは、代表の河野文昭氏が講演を行いました。NSPICE.NET では、機能安全対応に向けて、ISO/IEC 15504 に基づいたプロセス改善のガイドラインの作成に着手したことが発表されました。このガイドラインは、日本の企業や組織において、組織標準プロセスを拡張したり、実装したりする際に有用なものとなるでしょう。

日本 SPICE ネットワーク 代表 河野文昭氏

## “SPI Japan 2012 における日本 SPICE ネットワークの活動”

日本 SPI コンソーシアム主催、SPI Japan 2012 が、10月10日から3日間の日程で、大阪国際交流センターにて盛大に開催されました。

SPI Japan 2012 は、日本最大のソフトウェアプロセス改善のカンファレンスであり、今年で10年目を迎え、毎年、約250名の参加者があり、企業、団体などから約40編の取り組み事例の発表がありました。

日本 SPICE ネットワークは、第1日目の企画セッションにて、「SPICE を活用したプロセス改善」と題し、“NSPICE.NET の紹介”、“SPICE とは”、“CMMI と SPICE のモデルの違い”の発表及びパネルディスカッションを行いました。

“NSPICE.NET の紹介”においては、設立の背景・目的・経緯から始まり、日本 SPICE ネットワークの活動内容を重点的に紹介し、“SPICE とは”においては、SPICE の歴史から始まり、SPICE モデルの構成、さまざまな SPICE、欧州における SPICE の活用が紹介され、“CMMI と SPICE のモデルの違い”においては、既に CMMI モデルにて改善活動を推進している組織に対し、SPICE モデル導入時の留意点等を含めスムーズな移行プロセスの説明がなされ、参加者との討議が行われました。聴衆とのパネルディスカッションにおいては、SPICE を活用したプロセス改善、SPICE モデルや CMMI モデルなどのマルチな視点での仕事への取り込み等について、実際に改善を推進している日本 SPICE ネットワークのメンバーとの討論が行われ、聴衆の興味を大いに誘いました。聴衆者からは、日本 SPICE ネットワークへの参加方法に関しても質問がありました。

今後もこのような場にて、“日本SPICEネットワークの取り組み”や“SPICE の有用性を伝える”ことにより、プロセス改善活動の輪を広げることが、日本 SPICE ネットワークのメンバーのミッションです。

(連絡先: [sunil.kumar@intacs.info](mailto:sunil.kumar@intacs.info))

## JAXA PAM

### 日本のプロセスアセスメントモデルの作成

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)の代表団は、intacs™ アドバイザリーボードの代表者たちと会合を開き、プロセスアセスメントモデル(PAM)の日本における取り組みについて議論しました。日本の宇宙業界は、既存のソフトウェアプロセスを調整して信頼性と安全性の高いソフトウェアを開発しています。プロセス保証と継続的なプロセス改善は、品質の高いソフトウェアを達成するために必要です。非常によく確立された体系的な SPICE アセスメント手法が、JAXA によって日本の宇宙分野で適用されています。



たとえ西洋および東洋の企業が同様の方法でシステムエンジニアリングを実施したとしても、明らかに何らかのコンセプトや文化的な違いがあります。JAXA PAM では、プロセス能力指標とプロセス実施指標は、アセスメントを成功させるために、評価の観点に基づく具体的な情報の追加や改善の指示を記載しています。プロセス改善を効果的に導くために、JAXA PAM においてプロセス能力レベルである「J レベル」が、日本の宇宙業界における実質的な改善段階を考慮して定義されています。

JAXA PAM の第1版のリリースが 2013 年に予定されており、他の分野や国々が活用できるように公開されます。JAXA は、日本の宇宙業界の経験とベストプラクティスを共有させることによって、国際コミュニティからのフィードバックを改善のために期待しています。

(連絡先: [bernhard.sechser@intacs.info](mailto:bernhard.sechser@intacs.info))

## TestSPICE V2.0



TestSPICE Version 2 は、今回 intacs™により正式に妥当性が確認され、ISO15504-2 の要求事項に適合した PAM と認定されました。V1.0 時に収集した経験に基づく改良により、とりわけ、(内外の)試験工場を建築・経営するために必要な点を扱うプロセス領域に対し、より詳細な支援について規定しています。今後、認定機関との協力によって、Test SPICE に対するあらゆるサービスが利用できます。

さらなる改善と継続的な発展に対する計画が既に立案されており、継続的に本モデルをユーザーニーズに適応させていくことや、新しいベストプラクティスを取り入れていくことが始まっています。TestSPICE SIG は、次のステップに進むためにあらゆる関係者が参加し取り組むことを歓迎しています。

(連絡先: [detlef.vohwinkel@intacs.info](mailto:detlef.vohwinkel@intacs.info))



## 認定手順の大きな更新

認定に関して一部変更が適用されます。2013 年からは、VDA QMC が automotive コースに対する認定機関となり、iSQI はこれまでと同様にそれ以外のすべてのコース(新しい TestSPICE プログラムを含む)に対して認定を実施します。認定にかかる総費用は、大部分のトレーニングプロバイダーにおいて変更されません。

多くのトレーニングプロバイダーは、これまで intacs™ 標準トレーニング資料の使用を選択してきました。このトレーニング資料は、公正価格でライセンスを購入することで利用できます。トレーニングプロバイダー独自のトレーニング資料も、intacs™ の専門家によるレビュー費用を支払うことによって引き続き利用可能です。

インストラクターの認定は、トレーニングの認定と今後切り離されます。インストラクターの資格を申請または更新する場合、各自の認定機関に経験内容を報告してください。

(連絡先: [peter.boelter@intacs.info](mailto:peter.boelter@intacs.info))

## SPICE Wiki

現在のバージョン: intacs™ Gate4SPICE サイト内にある ZIP ファイルに内容が含まれています。これまで何度も、この内容をより簡単にアクセスできるようにして欲しいという要望がありました。今年末から「SPICE Wiki」の考え方と構想が構築されます。SPICE Wiki は、可能であれば intacs™ ホームページ上の既存のコミュニケーションシステムを活用してアクセスできるようにするつもりです。

(連絡先: [joachim.fleckner@intacs.info](mailto:joachim.fleckner@intacs.info))

## SPICE vs. Agile: 明確化への貢献

国際コミュニティにおける最も顕著な疑問点の一つに、SPICE モデルがアジャイルアプローチや手法と矛盾しているのかという点があります。この点は、Joachim Fleckner 氏がドイツのコミュニティ内で関心のある話題に対して最近実施した調査によって確認されました。その結果、コミュニティの 4 名の同僚たちが、コミュニティのために上記疑問点に関する誤った通念と回答のエッセイを書くことにしました。例えば、「アジャイル手法を組織全体で展開すれば、自動的に能力レベル 3 を達成できる」や「SPICE は複雑なプロセスを要求しているが、アジャイル手法はより効果的な代替策となる」といった主張が検討されます。このエッセイは遅くとも 2013 年第二四半期に完成する予定で、intacs.info 上で公式報告書 (white paper) として発行されます。

(連絡先: [pierre.metz@intacs.info](mailto:pierre.metz@intacs.info))

## 実施されたイベント

**ソフトウェアが付随する開発: 品質保証はソフトウェアの品質を「隠蔽する」のでしょうか、それとも保証するのでしょうか?**

実施日: 2012 年 10 月 30-31 日

前回の 2011 年 11 月 Gate4Spice イベント時 (VW で開催) に発表しましたように、VW の中央ソフトウェア品質保証部署 (K-GQK-4/2) は、興味深く重要な別の議題を用いて本シリーズを再開させました。

適切な品質保証の方法と程度に関して意見が大きく分かれました。ソフトウェア品質保証は必要でしょうか、それともソフトウェア品質保証は問題を引き起こすに過ぎないのでしょうか。また、どれほど大規模なソフトウェア品質保証にすべきなのでしょうか。

参加者からこのような質問が多く出され、熱心な議論が繰り広げられました。「開発時におけるソフトウェアの品質保証に対して共通の理解を獲得する」目的に到達するため、重要なステップが踏み出されました。本ワークショップの内容は、数週間後に intacs™ G4S Meeting Results の中に掲載されます。

## ソフトウェア品質・SPICE の議題のうち未対応の議題・要求事項の識別

主催: BMW

アジェンダ:

- SPICE の 10 年間で得られた教訓 (HIS または BMW)
- Mr. Fleckner 氏による intacs™E メールでのアンケートの結果
- 委員会における議題の収集
- 委員会における各議題
- ワーキンググループにおける各議題の進捗
- 結果の発表
- 結果のまとめ
- (投票による) 優先順位の割り当て
- ワークパッケージの定義と、対応のための担当候補者の識別 (可能であれば)

このワークショップは参加者からの評価が高く、内容は intacs™ G4S Meeting Results 中の記事 **2012-09-19 Gate4SPICE Event** に含まれています。

## intacs™ メンバーへのアンケート

intacs™ メンバーの最も興味のある議題を把握するために、intacs™ の全メンバーに対してアンケートを配布しました。現在そのアンケート結果が閲覧可能です。



53 名から回答があり、その内容の要約を以下に記載します。

- 回答者の大半(51 名)が、自動車部門に勤務しています。
- ほぼすべての回答者が Automotive SPICE に関心を持っています。
- Automotive SPICE と機能安全に特に焦点を当てています。
- ガイドラインや事例、専門家レベルの議論に対して深い関心があります。

詳細な内容は、intacs™ G4S Meeting Results の中の記事 **INTACS Questionnaire** に記載されています。

#### **Gate4SPICE イベント: 小規模プロジェクトやレガシープロジェクトにおけるテーラリング(第 19 回 EuroSPI 会議との共同開催: 2012 年 6 月 25 日、ウィーン)**

アセスメントにおいて、プロセスのテーラリングにしばしば直面します。アセスメントでは(小規模プロジェクトやレガシープロジェクトの)テーラリングをどのように受け入れたらよいのでしょうか、また、アセッサーが正しい評価を実施するために、どのような状況であればテーラリングが適切な意思決定となりうるのでしょうか。ワークショップでは、これらの疑問点の一部に対して回答を提供しました。このワークショップは参加者からの評価が高く、内容は intacs™ G4S Meeting Results の中の記事 **2012-06-25: Euro-SPI and G4S-Workshop: Experiences with Tailoring and Agile and Maturity Models** に記載されています。

#### **Gate4SPICE イベント: OEM とサプライヤー間を仲介するアセッサー(2011 年 11 月 24 日、ヴォルフスブルク)**

この Gate4SPICE 会合は、Volkswagen によって主催されました。

Kai-Helge Dieken 氏 (K-GQK/4) と彼のチームは Michael Marx 氏 (KMC) と共同で、アセスメントの実施、評価、結果の解釈に対する理由付けと動機を示すために本ワークショップを開催しました。このワークショップは参加者からの評価が高く、内容は intacs™ G4S Meeting Results の中の記事 **2011.11.24. G4S-Event: in Wolfsburg: Assessors in between OEMs and supplier** に記載されています。

とても反響が良く、2012 年にも新たなイベントが計画されました。(既に開催され、同様に多くの方が出席しました。)

#### **Gate4SPICE イベント: ENG.2 プロセスにおけるレベル 3 の評価方法(2011 年 10 月 10 日、ミュンヘン)**

この Gate4SPICE の会合は、ミュンヘンの Tieto Deutschland 有限会社によって主催されました。この日の第 1 部は、参加者に SPICE レベル 3 の内容を再度明確化させるため、説明のプレゼンテーションを実施しました。

第 2 部では、2 つのワーキンググループに分かれ、レベル 3 の各共通プラクティスに対し、どのような「エビデンス」に対してアセッサーが「F」「L」「P」の評価を行うことが求められるかについて議論しました。

(連絡先: [joachim.fleckner@intacs.info](mailto:joachim.fleckner@intacs.info))

#### **intacs™ 総会**



今年の総会は、ベルリンでの「VDA オートモティブ SYS 会議(VDA Automotive SYS Conference)」開催時に実施されました。アジェンダには、エグゼクティブボードやアドバイザリーボードからの報告と、intacs™ ワーキンググループによる簡易状況報告が含まれました。

2011 年は、市場において合併の年でした。自動車分野における業績は堅調であり、他の分野における軟調な業績を補いました。アセッサー数やトレーニングプロバイダーの増加に伴い、intacs™ の予算が 2011 年に倍増し、アセッサーコミュニティに対するサービスが大きく向上しました。特に、アセッサーのためのイベント数が増加しました (Gate4Spice)。詳細については、intacs™ のホームページを参照ください。

intacs™ は、TestSPICE PAM と PRM を含める点について TestSPICE の役員会と合意しました。今後、認定アセッサーの選択肢が追加されます。シラバスやトレーニング、試験、認定は、他のモデルと同様に利用可能です。手順書も合わせて更新されます。私たちは、TestSPICE が intacs™ の認定スキームに取り入れられたことを歓迎します。

最後になりますが、JAXA が JAXA PAM を発表し、コミュニティと経験を共有しました。

intacs™ は PAM の拡張 (TestSPICE) に伴い、自動車分野と同様に自動車以外の分野における将来の成長と高い有用性に期待しています。VDA-QMC とのパートナーシップに対するコミットメントも更新されました。

私たちは、認定アセッサーすべての皆様のコミットメントに感謝し、アセッサーコミュニティからのあらゆる支援を歓迎いたします。

(連絡先: [peter.boelter@intacs.info](mailto:peter.boelter@intacs.info))

## ワーキンググループのニュース

### 「国際化」ワーキンググループ

**intacs™ コミュニティは今もなお成長しています。**



intacs™ は、活動をより多くの国々へ拡大しています。特にアジア地域においては、SPICE の要求事項の解釈や実装方法を理解することに関心が高く、intacs™ は韓国と中国に地域代表者を新たに設置しました。その一方で、アメリカとヨーロッパのコミュニティは、知識交換に今なお関心を寄せています。ドイツでは、「アセッサー支援」ワーキンググループが、先月素晴らしい取り組みを実施しました。Gate4SPICE 会合を複数開催し、国際的な普及を支援することによってアセッサーコミュニティを団結させました。

intacs™ 地域代表は、intacs™ アドバイザリーボードとその地域の ISO/IEC 15504 コミュニティとを結ぶ窓口の役目を果たし、認定機関や国際 SPICE コミュニティのためにその地域の代表連絡先となります。地域代表は、毎月電話会議を実施し、その地域の SPICE アセッサーによって提出された今後の議題や質問内容について議論します。

現在、intacs™ は、来年の各地域のイベントに対する情報や資料を配信し、ブースを出展して存在を示し、支援していく予定です。アセッサーは、intacs™ アドバイザリーボードが認めた各地域のイベントにおいて、



消極的または積極的に貢献すれば EE3 または EE4 を取得することができます。新規のイベントに対する承認申請は、地域代表に連絡することによって実施できます。

各地域の情報は、[www.intacs.info](http://www.intacs.info) 上の「Regions menu」から直接アクセスできます。intacs™ は常に、地域代表のネットワークの拡大と、より多くの国際会議やイベントに対する支援を進めています。本ネットワークへの貢献に対して関心があれば、是非地域代表または「国際化」ワーキンググループのリーダーである Bernhard Sechser ([bernhard.sechser@intacs.info](mailto:bernhard.sechser@intacs.info))に連絡してください。

(連絡先: [bernhard.sechser@intacs.info](mailto:bernhard.sechser@intacs.info))

### 「信頼性アセスメント」ワーキンググループ



アセスメント結果を承認することは、信頼性の根拠となります。信頼性のあるアセスメント結果に対する前提条件は、質の高い規格(アセスメント手法、アセスメント実施、および能力を有する独立した当局によるアセスメント結果の妥当性確認について規定している規格)が存在しているだけでなく、規定された行動規範を遵守した認定アセッサーによってのみアセスメントサービスが実施されることです。

「信頼性アセスメント」ワーキンググループの目的は、承認されたアセスメント結果や、信頼性の適切なレベルを提供する仕組み(スキーム)を作ることです。対象は、ISO/IEC 15504-5 や、Automotive SPICE、TestSPICE といった ISO/IEC 15504-2 に適合したプロセスアセスメントモデルに基づき、各プロジェクトや ISO/IEC TR 15504-7 に規定されている組織ユニットに対して実施したアセスメントです。主な構想は、アセスメントが質の高い規格に基づき、認定された専門家(認定アセッサー)によって実施され、アセスメント結果が独立した品質保証下に置かれていることが保証されると、認定機関によってアセスメント認定書が発行されます。独立した妥当性確認等のための資産には、検査手順、アセスメント結果妥当性確認チェックリスト、「Certificate of Achievement(達成の証明書)」テンプレートが含まれます。

2011 年に第 1 回目の試験運用が完了し、中国の Neusoft Corporation IA 部門(自動車ビジネス)が、信頼性アセスメントスキームの基で成熟度レベル 3 を達成した最初の組織となりました。本ワーキンググループの次のステップとして、第 1 回目の試験運用で収集した経験を基に上記資産を改良し、信頼性のある妥当性確認を実施することによって国際コミュニティを引き続き支援していきます。最後に、皆様の組織にとっての信頼性アセスメントの主な利点は、アセスメント結果がより広範囲に受け入れられるようになることです。

本ワーキンググループは、以下のメンバーで構成されています。

- [Fabio Bella \(fabio.bella@intacs.info\)](mailto:fabio.bella@intacs.info) (リーダー)
- [Ranjeet Chhabra \(ranjeet.chhabra@intacs.info\)](mailto:ranjeet.chhabra@intacs.info) (日本の連絡先)
- [Ravindra Nath \(ravindra.nath@intacs.info\)](mailto:ravindra.nath@intacs.info) (中国、インド、韓国の連絡先)
- [Clemens Saur \(clemens.saur@intacs.info\)](mailto:clemens.saur@intacs.info)
- [Klaus Hörmann \(klaus.hoermann@intacs.info\)](mailto:klaus.hoermann@intacs.info)
- [Pierre Metz \(pierre.metz@intacs.info\)](mailto:pierre.metz@intacs.info)

本議題に関する詳細な情報や、皆様の組織で信頼性アセスメントの実施に関心があれば、上記メンバーに遠慮なく連絡してください。

(連絡先: [fabio.bella@intacs.info](mailto:fabio.bella@intacs.info))

## 「標準コース資料」と「アセッサーシラバス」のワーキンググループ

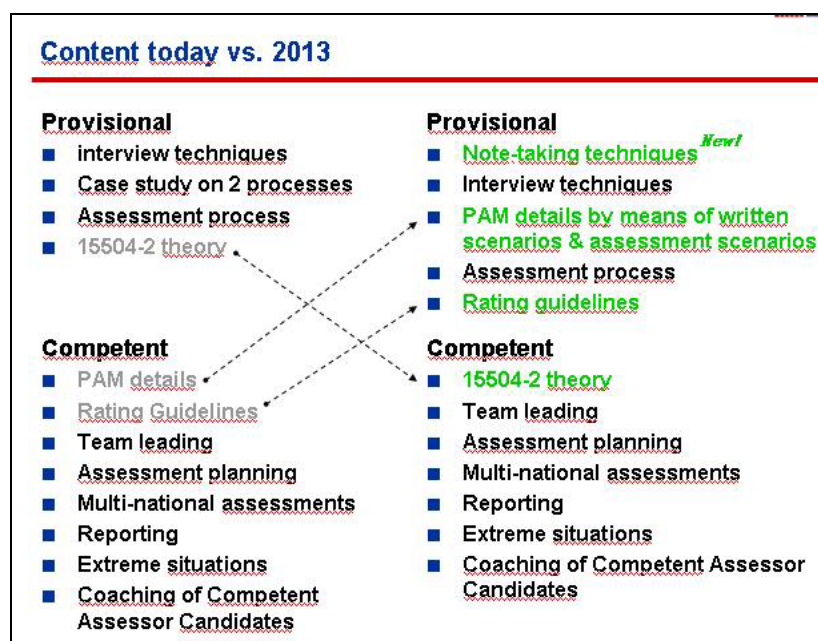
### プロビジョナルとコンピテントシラバスの再設計



コミュニティ内のトレーニングコースの講師、参加者、アセスメントチームリーダーから昨年収集したフィードバックによって、以下の結論に到達しました。

- 現在のプロビジョナルアセッサーコース資料は、効果的なメモ取りや PAM の指標に対する理解において、サポートアセッサー (co-assessor) として実際に求められるパフォーマンスに十分に対応していません。さらに、本コース内にサポートアセッサーの役割を果たすプロビジョナルアセッサーが実際には必要とならない 15504 の理論がとて多く含まれています。その内容は、むしろ PRM・PAM の作成や既存の PRM・PAM の適応に対して貢献をしていくコンピテントアセッサーやプリンシパルアセッサーに適しています。
- 同時に、コンピテントアセッサーコース資料は、PAM の技術的な説明やガイドが含まれていますが、多くの参加者にとって常に有益なものであると捉えられていません。その理由は、参加者が本コースに出席する前の段階で既に PAM を適用した実際の経験があるためと考えられます。

上記結論を反映するために、intacs™ の「シラバス」と「標準コース資料」ワーキンググループは両コースの再設計を開始しました。



新シラバスと標準コース資料のベースラインは、早ければ 2013 年 1 月 1 日に、遅くとも 2013 年 7 月 1 日に全世界で有効となります。この時期は、修正作業や intacs™ 地域代表による韓国語と日本語の翻訳次第となります。試験問題もこれに合わせて intacs™ の「試験問題」ワーキンググループで変更する必要があります。さらに、intacs™ は、トレーニングプロバイダーに必要な移行期間の規定を反映させなければなりません。

(連絡先: [pierre.metz@intacs.info](mailto:pierre.metz@intacs.info))

## 「試験問題」ワーキンググループ



本ワーキンググループの担当作業内容が 2011 年末に変更され、それ以来以下の点を更新してきました。

- MS Word ベースで作成された既存の試験問題は、試験問題新レポジトリに集約されました。
  - 試験問題は、設問が保存されている場所から設問をそれぞれ選択して作成するようになりました。
  - 設問は、共有／再利用できます。
  - 把握しやすく、構成管理が容易です。
- 品質の問題点が、詳細なレビューによって解決されています。
  - 翻訳の問題点(ドイツ語、英語、日本語、韓国語)
  - 設問内容に関する他の問題点
- 現在の状況:新レポジトリには以下のものが含まれます。
  - Automotive SPICE、ISO/IEC 15504、TestSPICE のプロビジョナル用試験問題
  - Automotive SPICE のコンピテント用試験問題
- 追加予定
  - ISO/IEC 15504 のコンピテント用試験問題のレビューと移行

(連絡先: [klaus.hoermann@intacs.info](mailto:klaus.hoermann@intacs.info))

## 「手順」ワーキンググループ



アセッサーとインストラクターの認定手順は、認定申請先の変更や、各モデルの認定機関の責任内容を明確に反映するために更新され、2013 年 1 月から有効となります。

更新された手順には、プロビジョナルからプリンシパルアセッサーまでの資格獲得過程や、アセッサーの保有する認定資格モデルを追加する際の規定と明確な規則についての説明が含まれます。本変更は、各モデルに該当するコミュニティによって提示された要求事項を基にしており、認定規定の透明度を改善するために実施します。

(連絡先: [detlef.vohwinkel@intacs.info](mailto:detlef.vohwinkel@intacs.info))

## 「アセッサー支援」ワーキンググループ



「Gate4SPICE」のイベントは、現在 intacs™ によって実施されているため、本項目には「Gate4SPICE」に関する情報も含まれます。

前回のニュースレター発行後、Gate4SPICE のイベントが 6 回実施されました(アンケートを含む)。

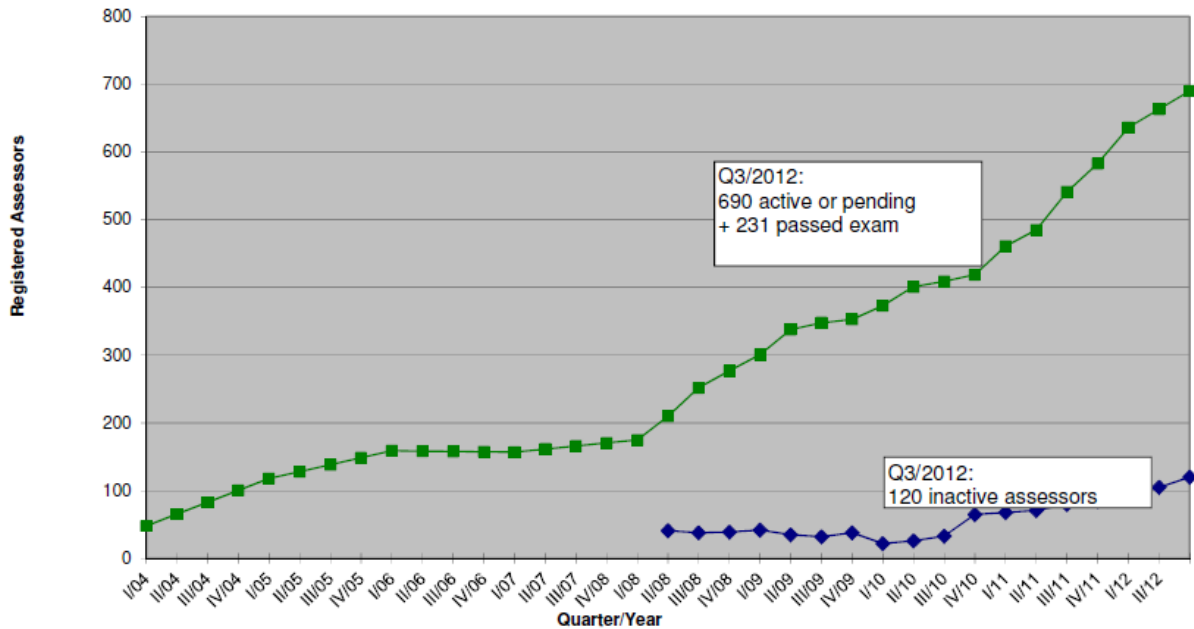
より詳細な情報については、intacs.info の Gate4SPICE を参照してください。ホームページ (<http://intacs.info/Gate4SPICE>) からログイン後 **G4S Meeting Results** のページにアクセスしますと、各ワークショップの内容に関する情報を得ることができます。

(連絡先: [joachim.fleckner@intacs.info](mailto:joachim.fleckner@intacs.info))

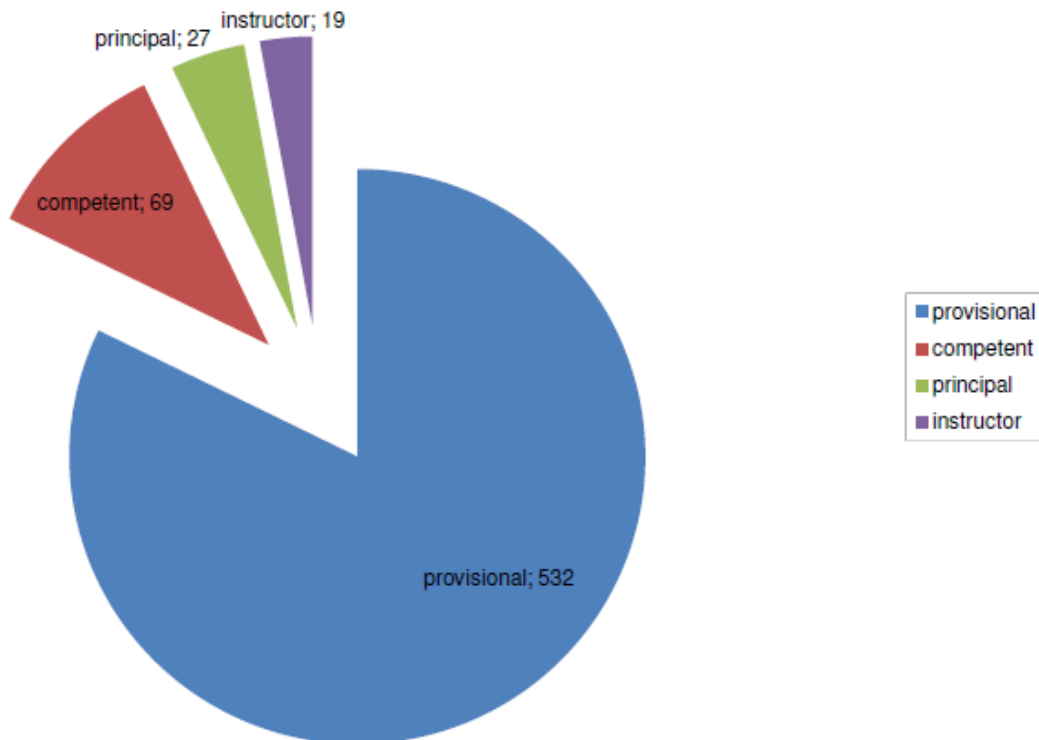
## 統計データ

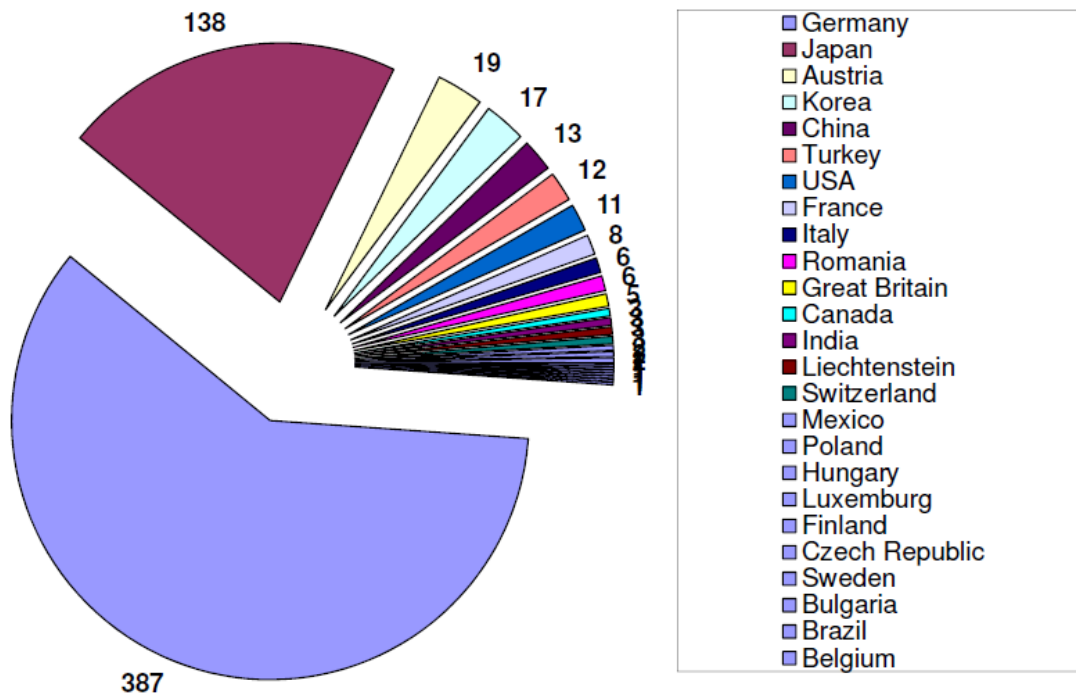
SPICE アセッサー (iSQI へ照会) と Automotive SPICE<sup>®</sup> アセッサー (VDA へ照会) の最新の認定に関する統計を以下に記載します。

### Automotive SPICE<sup>®</sup> アセッサー (2012 年第三四半期)

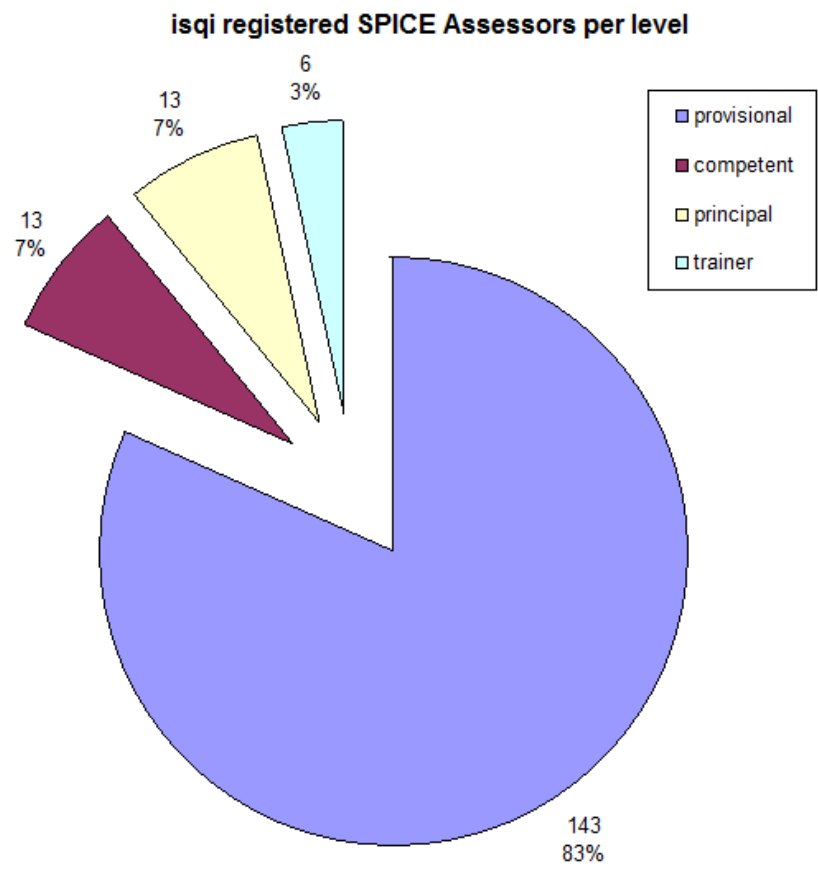


Active Assessors per level (519)

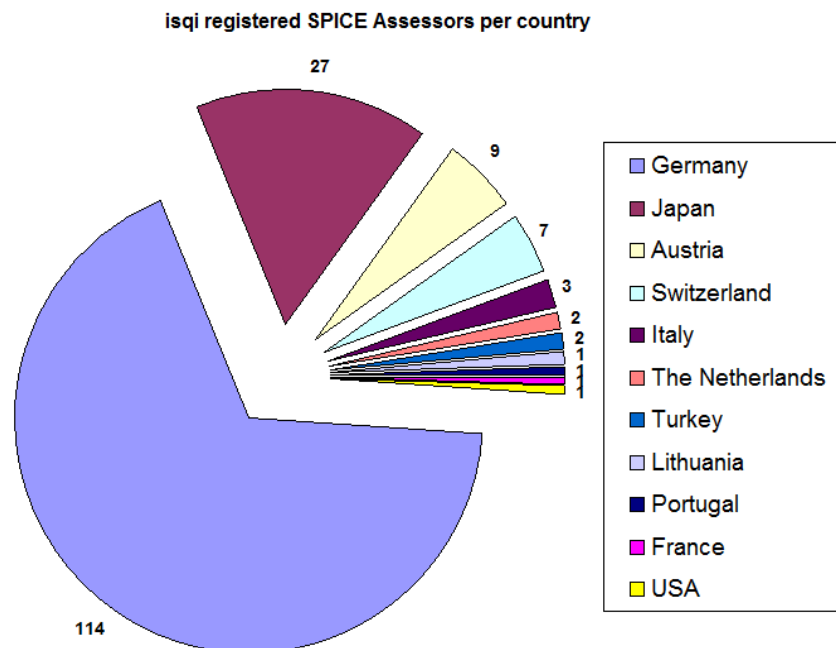




SPICE アセッサー (2012 年第三四半期)



intacs newsletter template v1.1.dot



## 今後のイベント

今後数ヶ月間に予定されているイベントの詳細な情報は、intacs™ のホームページを参照してください。

### Gate4SPICE ワークショップ:「アセスメントモデルにおける傾向」

- 内容
  - エンジニアリングのためのアセスメントモデル
    - ECU 開発のための ISO 15504-5 や Automotive SPICE の補足:「システムのための SPICE」と「自動車システムのための SPICE」
    - TestSPICE V2.0 の単独使用と、ISO 15504-5 や ISO 15504-6 との併用
  - IT 管理のためのアセスメントモデル
    - ISO 15504-8 と、IT サービス管理・情報セキュリティ管理のために提案された各種 PAM
    - COBIT 4.1(または 5.0)を活用した COBIT PAM
- 講演者: Mr. Nehfort (Nehfort IT-Consulting)
- 主催: Nehfort IT-Consulting と Software Quality Lab (SW Quality Days で開催)
- 実施日と場所: 2013 年 1 月 15 日、ウィーン (Austria Trend Hotel Savoyen Vienna, 1030 Wien, Rennweg 16)
- 登録: 数週間後に開始

### Gate4SPICE ワークショップ:「SPICE アセスメント初心者」

- 内容: この実用的なアセスメントワークショップは、アセスメントを始めて間もない段階にいる経験の浅いアセッサーを支援するためのものです。包括的な事例に基づき、アセスメント状況を複数のロールプレイの中でシミュレーションします。



- 講演者: Mr. Sechser (methodpark)
- 主催: Mr. Hohrein (Continental)
- intacs™事務局: Mr. Besemer (SynSpace)
- 実施日と場所: 2013年3月7日、シュヴァルバツハ アム タウヌス(Continental)

### Gate4SPICE ワークショップ:「SPICE と機能安全」

- 本ワークショップでは、ISO 26262のプロセス要求事項を SPICE と調和させるための各種アプローチ(相互参照、独立 PAM、補足項目)について発表し、提案内容について議論します。
- 議長: Mr. Metz, (Brose)、講演者: 複数(各アプローチを説明)
- 主催: Mr. Albertz (KMC)
- intacs™事務局: Mr. Albertz (KMC)
- 実施日と場所: 2013年4月15日 10:00-17:00、シュトゥットガルト (KMC)

### Gate4SPICE ワークショップ:「TestSPICE」

- TestSPICE は、テストプロセスを分析・改善する必要性に基づいて作成されました。本ワークショップでは、新しい TestSPICE の取り組みに対する基本的な考え方と利点について説明します。
- 講演者: Mr. Vohwinkel (SQS)
- 主催、実施日、場所: 要確認

### Gate4SPICE ワークショップ:「Automotive SPICE アセスメントにおける第三者ソフトウェアの確認」

- 第三者ソフトウェアはよりはるかに注意を要するため、ACQ.4 はあまり適切ではありません。ACQ.4 は、より「エンジニアリングサービスに焦点が当てられている」からです。
- 主催と講演者: Mr. Hönow (Continental Regensburg)
- 場所: レーゲンスブルク
- 実施日: 要確認

(連絡先: [joachim.fleckner@intacs.info](mailto:joachim.fleckner@intacs.info))

## 文書責任

### 統括責任者

Timo Karasch  
intacs™ info 管理者  
連絡先: [timo.karasch@intacs.info](mailto:timo.karasch@intacs.info)

### ドイツ語版リリース

Timo Karasch  
intacs™ info 管理者  
連絡先: [timo.karasch@intacs.info](mailto:timo.karasch@intacs.info)

### 英語版リリース

Stephenie Hodder  
intacs™ info 管理者  
連絡先: [Stephenie.Hodder@intacs.info](mailto:Stephenie.Hodder@intacs.info)

### 日本語版リリース

小川 清、スニル クマール  
intacs™ 日本地域代表  
連絡先: [ogawa.kiyoshi@nmiri.city.nagoya.jp](mailto:ogawa.kiyoshi@nmiri.city.nagoya.jp)  
連絡先: [sunil@biz3.co.jp](mailto:sunil@biz3.co.jp)

本ニュースレターは完全版のみ使用可能です。部分引用あるいは転載には許可が必要です。